

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000041		
法人名	株式会社コウケンパートナーズ		
事業所名	グループホームアクア		
所在地	山口県光市木園1丁目4番5号		
自己評価作成日	平成29年1月26日	評価結果市町受理日	平成29年6月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは街の中心地にあり、医療、買い物と利便性の良い場所にあります。さらに、自然に恵まれホームの裏には島田川があり河川には、野鳥や魚がおり四季折々な風景を目にする事が出来、散歩が楽しめます。また、開設当初からの職員が数多く在籍し、利用者様やご家族様とも良好な信頼関係を構築しています。さらに、地域の行事である盆踊りや餅つき大会に参加をしたり、当ホームの避難訓練に地域の皆さんが協力して下さったり、自治会主催の防災訓練に当ホームも参加したりと良い関係が出来ています。ホーム内ではご家族様と入居者様が一緒に参加できる行事もありみなさんで楽しむことが出来ます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム便りを、2か月毎に地域や中学校、関係機関へ配布しておられる他、職員は、地域の清掃活動や地元の中学校の認知症声かけ訓練、自治防災会の防災訓練に参加され、利用者は、地域の盆踊り大会、年末の餅つき、近隣の福祉施設のバザーに参加されて地域の人と交流しておられるなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流しておられ、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように支援しておられます。利用者一人ひとりの思いや意向の把握を丁寧にされ、日常生活の中での利用者の様子などを連絡ノートや経過記録に記録され、職員全員が共有されて、利用者の思いに沿った支援に努められています。食事は、シルバー人材センターの調理担当職員6名が交替で調理され、献立は利用者の希望や好みを聞いて職員が作成されています。食事の形態や食器の色、形、重さ、持ちやすさにも配慮され、利用者とは同じテーブルを囲まれて会話をされながら同じ食事を楽しておられる他、おやつづくりや季節の行事食、喫茶店でケーキセットを食べられたり、華族との外食など、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	仕事に入る前に理念を必ず確認し、御家族様や地域向けのホーム便りにも理念を掲載している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を、事業所内に掲示し、業務開始前に唱和している。職員は理念を理解し「地域の中で」「今を楽しく」「家族に安心を」の3つを意識付けして、利用者が自分らしい生活を送れるように、これまでの暮らしを大切にして、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して自治会の行事に積極的に参加している。また、施設内の避難訓練などの行事にも、地域の皆様や消防団の方に参加していただいている。	自治会に加入し、職員は総会や地域の清掃活動、自治防災会の防災訓練に参加している。地域向けホームだよりを、2か月毎に地域や中学校、関係機関へ配布している。利用者は、地域の盆踊り大会、年末の餅つき、近隣の福祉施設のバザーに参加して地域の人と交流している。中学校の職場体験の受け入れやボランティア（オカリナ、家族のギター演奏）の来訪があり、交流している。事業所の行事には地域の人の参加がある他、雛人形やみかん、野菜、菓子の差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。地元の中学校の認知症声かけ訓練にも協力して認知症の啓発活動にも努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を支える家族の会主導で行われた、地域中学校での認知症の声かけ訓練に参加し、協力を行った。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員ミーティングの際にサービス評価項目ガイド集に基づいて勉強会を行い、それぞれの項目について積極的に意見交換を行った。	毎月のミーティング時に、職員全員でガイド集を基に、各項目の考え方の指針や着眼点について学習し、評価の意義について理解して、自己評価に取り組んでいる。評価を職員の業務に対する意識づけと振り返りと捉えている。平成27年度の目標達成計画に、「個々のプライバシーに配慮した対応」を立てて、具体的な改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を会議の参加者やご家族様全員に送付し、職員にも目を通してもらって内容を把握していただき、施設の様子がわかるようにしている。	会議は2ヵ月に1回開催し、事業所の活動や利用者の状況、事故報告、研修報告、外部評価結果の報告などをして、意見交換している。家族に、議事録や資料を送付している。	・参加メンバーの検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の職員の方にも参加していただき、意見交換を行っている。また疑問点があれば市の担当課に問い合わせを行い、積極的に協力体制を築いている。	市担当者とは、運営推進会議時の他、直接出向いて相談して助言を得ているなど、協力関係を築いている。地域ケア会議や市主催の研修会(虐待防止、地域包括ケアシステム)に参加し情報交換を行っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、職員全員が理解をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者様の状況に応じて、玄関の開放も行なっている。	虐待や身体拘束防止の外部研修に参加した職員が内部研修で伝達報告を行い、職員は理解して玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出したい利用者とは、職員と一緒に出かけている。スピーチロックについては、気になる場合には管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての外部研修に参加し、施設でも勉強会を行うことによって職員間の理解を深め、虐待の未然防止に取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、定期的に勉強会を行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には重要事項説明書などについての説明を行ない、契約内容をご理解いただいたうえで、疑問点があれば対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受け入れ態勢や処理手続きを定めている。運営推進会議やご家族様の面会時などに意見を取り入れて、運営に反映できるよう努めている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。家族には、利用料金の支払い時、面会時、運営推進会議出席時、家族交流会、電話等で意見や要望を聞いている。利用者を担当している職員が、利用者の様子を写真入りで報告しているなど、家族が意見や要望を言いやすいような雰囲気づくりをしている。ケアに関する意見や要望には、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や意見を代表者に相談して、代表者からの指示を受け、円滑な運営につとめている。	月1回のミーティングや朝夕の申し送りの時に職員からの意見や要望を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも管理者が聞いて、代表者へ日報としてメールで報告している。バイク置場の確保や車いす、移動ボード、医療用空気清浄器の購入などの意見や提案を反映させている。	・意見の反映
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に施設環境を把握し、迅速な対応をしている。また職員の健康診断を定期的に行い、職員の健康づくりにつとめている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を職員に伝え、希望や段階に応じて、積極的に参加の機会を提供している。毎月テーマに沿って勉強会を実施し、研修受講者が講師を務めるなど働きながら学べるようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ、勤務の一環として受講の機会を設けている。受講者は、研修記録を作成し勉強会で報告している。内部研修は、勉強会として月に1回テーマを決めて計画しているが、研修受講者の報告が中心となり、十分とは言えない。他施設と合同で外部講師を招いての研修を2回開催している。資格修得については、勤務体制の変更に配慮している。	・計画的な内部研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度よりグループホーム協議会が発足し、施設ごとに持ち回りで会議を開催し、交流をはかっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センターシートを利用してアセスメントを行い、本人にとってより良い支援が行えるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に先だっご家族様の思いを受け止めて、職員の間で情報を共有し、安心していただけるよう心掛けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の状況を把握し、問題になる事柄に優先順位をつけ、必要に応じて変更しながら、1つ1つ問題を解決していけるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人のできることを活かしながら、それに対する感謝の思いを示すことによってやりがいを感じていただき、ともに生活する関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様に利用者様の状態をお知らせするお便りをだしている。また、御家族様対応の受診については連絡ノートを作成し、活用していただいている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの知人の方が気軽に面会できる環境を作っている。ご家族様が利用者様行きつけのお店や美容院などに連れて行くなどして、関係が継続できている。	家族の面会や兄弟、親戚の人、近所の人、教え子などの来訪がある他、年賀状や手紙の受け取り、電話の取り次ぎの支援をしている。行きつけの美容院の送迎で美容院を利用したり、家族の協力を得ての法事への出席、墓参り、外食、買い物、一時帰宅、受診など、馴染みの人や場所との関係が切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士がお互いの部屋で過ごして楽しい時間を共有したり、利用者様同士で助け合いや出来ない事へのフォローを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様に面会に行ったり、ご家族様に近況報告などを行うなど、手紙や電話のやり取りなどで関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者様の思いや希望を把握し、ミーティングや申し送りの場で職員同士の意見交換を行い、その方に合ったケアプランを作成している。	入居時の基本情報やひもときシート、センター方式シートを活用している他、日々の関わりの中での利用者様の様子などを、連絡ノートや経過記録に記録し、全職員で共有し、思いや意向の把握に努めている。経過記録は、ケアプランが達成できた項目、出来なかった項目、特記事項(次に繋がる)を3色に色分けをして、利用者の状況が一目でわかりやすいように工夫している。把握が困難な場合は、家族からの聞き取り、職員間で話し合っ、本人本位で検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や親戚から話を伺ったり、利用者様の様子を観察して情報を得ることにより、本人にあったサービス提供を行い、その人らしい暮らし方や力が発揮できるよう支援している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の介護記録を記入し、それを常に確認することにより、小さな変化を見逃さないよう心掛けている。勤務に入る前には必ず申し送りを行い、特変があれば詳しく説明する事で状態が把握できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議でご家族様、管理者、担当職員、ケアマネとの話し合いの中で意見を出し合い、本人の状態にあわせた介護計画の作成を行っている。また、状態に変化があれば、臨機応変に介護計画を変更し、対応している。	管理者、計画作成担当者、利用者を担当している職員を中心に、毎月1回カンファレンスを開催し、利用者の思い、家族の意向、主治医からの受診連絡ノートでの意見を参考にし話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている他、利用者の状態に変化がある場合は、その都度見直しをして、状況に応じた介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表や介護記録を記入する事によって情報の共有化を図るとともに、問題点や気づきがあれば必ず記録を残すようにしている。個別のファイルを作成し、病歴や服薬状況などを把握してリスクのチェックを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事やイベントがある時には出勤する職員を増やして対応し、ご家族にも参加していただき、楽しく安全に過ごしていただけるよう支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に二回実施する避難訓練の後で、参加していただいた地域の方と懇親会を行い、意見交換をしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族馴染の医療機関を受診したり、協力医療機関以外の近隣の病院による往診や健康相談にのっていただくなど、緊急時の対応にも留意している。	利用者それぞれの希望する医療機関や協力医療機関をかかりつけ医としており、受診は家族の協力を得て支援をしている。受診時には連絡ノートを活用し、利用者の生活状況や気になる様子を情報提供しており、受診結果については、職員間で共有している。近隣の医療機関の協力もあり、往診や看護師(週2回)による健康管理や治療の支援がある他、夜間等の緊急時は、協力医療機関と連携しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域の医療機関による看護師の訪問や相談、当施設の看護師による健康指導など、利用者様やご家族が安心できるサービスの提供を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書の作成・提供だけでなく、お見舞い等ケアの協力につとめ入院中の状態を把握し、カンファレンスに同席してご家族と情報の共有を行なったうえで、退院後のケアにむけて支援計画をたてている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常時医療行為が必要になるまで、可能な限り本人様や御家族の希望に沿った支援ができるよう、その都度意向の把握につとめ、重度化した場合は協力医療機関と連携出来るよう支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化や終末期に向けて事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、利用者の状況の変化に応じて、医師の意見を聞き、家族と話し合い、医療機関への入院や他施設への移設も含めて方針を決めて、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	外部から講師を招き、他施設の職員と合同で感染症発生時の実践対応を行った。また、緊急時に対応した連絡網や夜間対応マニュアルを新たに作成し、常に複数の職員が対応できるよう備えている。	事故報告書、ヒヤリハット報告書に、発見者が記録し、他の職員には申し送り時に報告し、書類は回覧している。月1回のミーティング時に、リスクマネジメント評価を行い、転倒などのリスクチェック表を作成し、利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。職員は、上級救命や普通救命の講習を受講しており、半年に1回は、緊急時の対応や他施設と合同の感染症発生時の実践的な訓練を実施している。夜間については、緊急時の連絡網や夜間対応マニュアルを作成し、夜間対応スタッフとして常に複数の職員で対応できる体制をつくっている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策計画を新たに作成し、定期的を実施する施設の避難訓練では自治体の方にも参加していただき、積極的な意見交換を行っている。	火災対策として、年1回は消防署、もう1回は地域の消防団の協力を得て、昼夜間を想定した避難、消火、通報、避難経路の確認の訓練を、地域の人の参加を得て実施している。地域で、自治防災会を設置しており、年2回の防災訓練時(講演会も含む)には、地域の消防団や自治会長を始め地域住民が多数参加しており、事業所としても、風水害時の対策として水の確保、備蓄、防災用具を整備している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時に「トイレに行きましょう」などの具体的な言葉を使わず、さりげなく誘導を行うなど、個々のプライバシーを重視した対応を心掛けている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録の保管や取扱にも注意している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の身振りやしぐさなどを通して、本人が何をしたいかをくみ取るよう努力している。また、職員の間で利用者様の個々のシグナルについて共通した認識を持つよう気を付けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつの時間や場所、入眠時間など、利用者様のペースに合わせてできるだけ本人の希望に沿えるよう支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着の更衣の際、自己決定出来ない方はスタッフと一緒に選び更衣して頂いている。また、整髪できない方には職員が手伝うなどしている。入浴後や就寝前に化粧水をつけるなど、自分らしい身だしなみができるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に配膳などをしていただき、個々に合わせた食事形態で提供している。また、年に一度はご家族様との外食の機会を設けたり、季節の行事に合わせた献立作りを行う、あるいは喫茶店に行くなどして、食べる事を楽しめるよう心掛けている。	食事は、シルバー人材センターの調理担当職員6名が交替で調理しており、献立は利用者の希望や好みを聞いて職員が立てている。利用者は、盛り付け、下膳、テーブル拭き、食器洗いなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルで、会話をしながら同じものを食べている。お粥、きざみなどの食事の形態の他、食器の色、形、重さ、持ちやすさにも気を配っている。おやつづくり(フルーツヨーグルト、ホットケーキ)や行事食(お節、節句、花見寿司、年越しそば)、外食、喫茶店(ケーキセット)、家族との外食、敬老会での食事など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや飲水量を記録し、個人個人の食事量を把握するようつとめている。嚥下不良の方には水分にとろみをつけ、刻み食やお粥を提供するなど工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実践して、清潔が保てるようにしている。自分で出来ない方は、スタッフの介助により口腔ケアを行っている。義歯を装着している方は、義歯の洗浄も行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の感覚を保てるよう、日中は布パンツを使用してトイレでの排泄を行えるよう支援している。また、利用者様の排泄のシグナルを見逃さないよう注意し、失禁があった場合は羞恥心を与えないような声かけの工夫を行っている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品を提供するなどして、なるべく自然に排泄できるよう促している。また、処方された下剤を使用する場合は個々の状態に応じて調整を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴希望があった場合は、可能な限り対応している。本人の健康状態に応じて、入浴ができない時は全身清拭などを行っている。	入浴は毎日、13時30分から15時30分までの間可能で、利用者の体調や希望に合わせて、週3回はゆっくり入浴できるよう支援している。入浴したくない利用者には、声かけや職員の交代、時間の変更などで、個々に応じた対応をしている。利用者の状態によって、シャワー浴や足浴、清拭を行っており、入浴剤や柚子湯など入浴を楽しむ工夫もあり、入浴後は、ローションの塗布や化粧水で手入れをしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか入眠できない利用者様には、リラックスして入眠できるよう話相手をつとめたりするなど、個々の状況に合わせて対応を行っている。また、日中も利用者様の体調にに応じ、休息を設けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様毎に服薬ファイルを作成し、投薬の変更があった場合は必ずスタッフ間で内容を伝達するよう徹底している。服薬の際にはスタッフが付き添い、誤薬防止につとめている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の塗り絵や絵描き、特技を活かして衣類のボタンつけなどをしていただいている。また、好みに応じた音楽のCDなどを取り寄せ、音楽を聞いて楽しんでもいただくなどしている。	ぬり絵、習字、書初め、カルタ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、おやつづくり、食事の準備、ボタンつけ、ボール遊び、すごろく、福笑い、計算ドリル、ゲーム、風船バレー、テレビやDVDの視聴、新聞の購読、読書、キーボード演奏、ギターに合わせて歌を歌う、ワッハハ体操、嚙下体操、足踏み体操、地域行事(盆踊り、餅つき、しめ縄づくり、祭り)への参加など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が喜びや張り合いのある生活を送れるよう支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様や地域の方々に協力していただき、地域イベントに参加したり、外出の際、歩行困難な方には車椅子を使用していただくなどして、個別の状況に合わせた対応を行っている。	周辺の散歩や地域行事への参加、季節の花見(梅、桜、バラ、菖蒲、紫陽花、銀杏、紅葉)、外食、市内のドライブの他、家族の協力を得ての外出や一時帰宅など、利用者の希望に沿って、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理を行っているが、初詣の時に財布を持ってお賽銭を使っていたりなどの機会を設けている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自ら電話が出来るように支援している。年賀状や手紙のやりとりも出来るよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに医療施設用の空気清浄器を設置している。また、季節に応じて飾りつけを行ったり、車椅子の方が過ごしやすいうテーブルの配置を変えるなど、工夫を行っている。	玄関には、雛人形や生け花があり、ウサギの飼育もしている。自然光が差し込み明るいリビングには、テーブルやイス、テレビの前にはソファがあり、自由に配置換えできるようになっている。対面式のキッチンからは、調理の音や匂いがしている。壁面には、季節に合わせた飾りや行事の写真が飾っており、温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の各所に椅子やソファを設置し、利用者様の気分に合わせてくつろげる場所や談笑用のスペースを提供している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や写真、自分で描いた絵を貼っていただくなど、個人の好みに応じて過ごしやすき空間になるよう工夫している。	ベッドやタンス、整理棚、三段ボックス、衣装掛け、椅子、簾椅子、テレビなど利用者が使い慣れた馴染みの家具を持ち込み、ぬいぐるみや化粧品、花、家族写真、自分の作品など利用者の好みのものを飾って、居心地良く暮らせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様にわかりやすいようトイレなどの表示を工夫して、自立のための支援を行っている。また、利用者様の身体機能の状況に応じて、歩行器や車椅子、シルバーカーを使用いただいている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム アクア

作成日：平成 29 年 6 月 19 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5 (4)	二ヶ月に一度開催される運営推進会議において、地域からの参加者として、地区の民生委員が参加していない。	運営推進会議メンバーの中に、地区の民生委員の方に参加していただく。	運営推進会議メンバーである認知症患者を支える家族の会の方より、地区の民生委員の方に声かけを行っていただいた。また、当施設より直接連絡を行い、運営推進会議への参加をお願いした。	2ヶ月
2	12 (8)	福利厚生に関して、職員間の交流を深めるにあたって、会社から何らかの形でサポートが欲しいとの要請があった。	福利厚生の充実をはかる。	代表者に相談を行い、職員のコミュニケーションを図れるよう親睦会等の補助を依頼する。	1年
3	14 (9)	施設外研修において、職員全員が希望する研修に充分に参加できていない。	職員が希望する研修に、全員が参加できるようにする。	研修参加の具体定期的な年間計画をたて、職員全員の希望を聞いてできるだけ研修に参加できるようにする。また、年間計画外の研修の案内が来た時も告知を行い、希望者が参加できるようにする。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。